



## 学校だより

教育目標 自主自律 創造性  
豊かな心 健やかな身体  
校訓 井草魂～自主、不屈の精神、共感・共働の心～

令和 5 年 7 月 21 日

杉並区立井草中学校  
校長 田口 克敏

### 「小学 1 年生の算数を担当して分かったこと」

校長 田口 克敏

7月15日、数年ぶりの「合唱コンクール」を実施しました。新型コロナウイルス感染症下で保護者の入場制限をしたり、マスク着用で歌ったり、自由曲のみの演奏で「コンクール形式」としないなどの数々の制約の中で実施した昨年度までとは異なり、ほとんどの生徒がマスクを着けず大きな声で堂々と歌う姿を見て、コロナの「軛（くびき）」がまたひとつ外された思いがしました。歌声とは不思議なもので、聴く側には歌い手の「思い」のようなものを感じさせる力があります。各学級の生徒が歌う声からは、それぞれの気持ちが伝わってくる気がしました。歌もコミュニケーションのひとつであり、話し言葉と同じく発する側の「伝えたい」何かを込めることができると、改めて感じました。

しかし、伝えたい気持ちがあってもなかなかうまく伝えることができないこともあります。

数年前、パラグアイ共和国のアスンシオン日本人学校に勤務していた3年間のうち2年間、私は小学1年生の「算数」を担当しました。アスンシオン日本人学校は極小規模の「小中併設」の学校であり、日本から派遣される教員の数は校長を含めても6名しかおらず、加えて「国語、算数・数学、社会、理科、英語」は「教科担任制」をとっていたこともあり、派遣教員全員で専門以外の分野の教科も指導をしないとまわらない環境に置かれていました。その結果、私も日本ではおよそ教える機会など絶対に巡ってこない小学1年生の「算数」を担当しました。

1年目の終わりに教務主任から「算数」の担当依頼を受けた時、正直「どうやって1年間もたせればいいのか」と思いました。教科書は薄く、しかも文字はほとんどなく、前半の部分は大半が「絵」で占められており、指導は「1時間もかからず終わってしまうのではないか」と感じました。大人から見ればあまりにも「簡単・単純」過ぎる内容と見えるので、少々「軽く・甘く」見ていました。当時の小学1年生は三人。そのうち就学前に家庭で予備学習、つまり時計の読み方や数の数え方、計算練習などを積んでいた児童が二人。ところがもう一人の児童は現地の保育園にかよっていたものの、他の二人のように予備学習をしていなかったため、同じように説明してもひとつひとつが「わからない」ということになりました。加えて、中学校でしか教えた経験のない私の使う言葉は、自分では易しくしているつもりでも彼らには難しく、時々真顔で「校長先生、〇〇って何？」と聞かれる時には閉口しました。

その時に、自分がこれまでいかに「分かっていることを分かるように伝えた気になっていたか」ということに気付かされました。中学校は小学校の積み上げの上に成り立っているのに、教員が一般的な言葉を使ってあまり苦労せずに話したり書いたりして済ませても、生徒は真顔で「〇〇って何？分からない！」とは言いません。だから「教えたつもり」になってしまいます。しかし「数の概念」がまだ形成されていない小学1年生に、「 $2 + 3 = 5$ 」とか「 $7 - 3 = 4$ 」などを「数の概念」を伴わせながら、しかも彼らに「分かるように」教えることがどれほど難しいことなのか、身をもって体験しました。また小学1年生の担任の教師がいかに「えらい」か、とも感じました。なぜ小学1年生には「算数セット（保護者の方々も、かつては入学前に細かな「名前シール」をつくり貼り付けた経験をお持ちだと思います）」が必要なのかよく分かりました。子供は「数の概念」をおはじきなどの「具体物」を操作することで身に付けていくからです。

「どうやって1年間もたせるか」などと考えた自分の浅はかさを思うとともに、伝えたい思いは十二分にあるのに、それを言葉で小学1年生に伝えることの難しさを実感したことは、相手にいかに分かるように話し伝えていくかを、よくよく考える習慣づけをもたらせてくれました（自分が書くこれらの文章も果たしてその線で書いているのだろうか、いつも不安ではあります）。

## 高校出前授業が行われました（3年生）

6月30日（金）に7校の高校の先生をお招きし、主に次の二点を目的として実施しました。

- ① 上級学校への興味・関心をもつこと
- ② 高等学校の先生の授業を実際に体験し、学習意欲を向上させること

説明会で、ある学校の先生が冒頭でお話しされたことを紹介します。

「パンフレットに載っている写真はきれいでしょ。これから説明することも、自分の学校のいいことしか話しません。だから、自分たちでこの情報が本当なのかを確認することが大切です。」

自分が通うかもしれない学校の情報は、自らつかみに行く必要があります。正しい情報を得るには、自分の目で見て直接話を聞くことが一番です。夏休み等を利用して、学校説明会や体験授業などに積極的に参加してください。

<東京立正高等学校：理科>



<都立杉並工科高等学校：数学>



<都立井草高等学校：英語>



<都立東久留米総合高等学校：産業・職業>



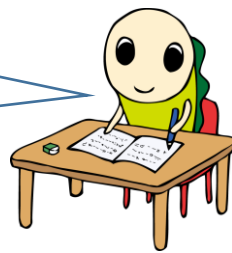
この他、

中央大学杉並高等学校（国語）

東亜学園高等学校（数学）

都立新宿高等学校（社会）

の授業も行われました！



<説明会の様子>



## 体罰・暴言根絶に向けて宣言します

今年度、井草中では体罰防止・暴言根絶に向けて、「こころに寄り添い チームで指導」を念頭に置き教育活動を進めます。

右のポスターは職員室と2階廊下にも掲示しています。



## 合唱コンクールが行われました

新型コロナウイルスが5類感染症に移行され、本校でも杉並公会堂でコンクール形式での合唱の発表を行うことができました。今年度は、東京藝術大学教授をお招きして、指導講評をいただきました。

クラスで合唱を創りあげる過程を通して意欲や自主性を高め、協力して取り組むよい機会となりました。当日は、どのクラスも素敵なおハモニーを奏でていました。



<最優秀賞>

- 1年E組
- 2年B組
- 3年B組

<優秀賞>

- 1年C組
- 2年D組
- 3年A組

<遙かな歌声  
響かせたで賞>  
i組

## 今年度着任した教職員を紹介します【その3】

今月は2名の教職員にインタビューしました。

- ① 自分のことを漢字一文字で表すと…
- ② その理由は…
- ③ 井草中学校の生徒の皆さんへ一言メッセージ



### 1年副担任

- ① 「青」
- ② 青色が好きだから。青色の服が多いから。
- ③ 理科が好きになってくれると嬉しいです。



### 学校図書館司書

- ① 「直」
- ② 私の名前は「素直な子になるように」と名付け親の神主さんがつけてくれたそうです。「素直」というのは、簡単なようで一番難しいということを大人になってしみじみ感じています。
- ③ 中学時代は心も体も成長する時期ですので、いろいろ体験してください。そして体験できない部分を、ぜひ読書でおぎなってもらえればと思います。

## ＜8・9月の行事予定＞

日	曜	行事	日	曜	行事
8/28	月	始業式 給食なし	14	木	危機対応訓練
29	火	⑤⑥カット 給食始	15	金	選挙リハーサル 中央委員会（前期最後） 水泳指導終 組学級見学会
30	水	校内研究会	16	土	土曜授業 キャリア講座(2年) 第1回新入生保護者説明会（午後）
31	木		17	日	
9/1	金	安全指導	18	月	敬老の日
2	土		19	火	生徒会役員選挙⑥
3	日		20	水	小中合同研修（井草中）
4	月	全校朝礼	21	木	部活動体験（桃四小）
5	火		22	金	専門委員会（前期最後） 部活動体験（桃四小）
6	水	学年会	23	土	
7	木	修学旅行(3年)始	24	日	
8	金		25	月	生徒朝礼（新旧役員挨拶） 部活動体験（三谷小）
9	土	修学旅行(3年)終	26	火	部活動体験（三谷小）
10	日		27	水	職員会議 職場体験(2年, i 組)始
11	月	3年振替休業日	28	木	
12	火		29	金	職場体験(2年, i 組)終
13	水	校内研究会 学校運営協議会	30	土	

### 生徒の皆さんへのお知らせ

その1：杉並区中学生小笠原自然体験交流の校内応募締め切りが9月1日（金）となっています。希望者は1学期中に応募用紙を担当の先生から受け取ってください。詳しくは7月に配布したパンフレットを確認してください。

その2：2階の公衆電話が7月27日（木）に撤去されます。2学期以降、緊急時など保護者と連絡をとることがどうしても必要な場合は担任の先生に相談してください。